

鉄道の開設と南テキサス

ブラウズヴィルとコーパスクリスティを鉄道で結ぶ構想は1873年頃から練られていたが、必要な資金を集めるまでには至らなかった。ブラウズヴィルへの鉄道乗り入れはキング牧場主リチャード・クレバーク、リオグランデ・ヴァレーの有力な政治ボスであるジェームス・B・ウエルスをはじめ多くの有力者の努力の結果であった。1900年、クレバークは井戸水で灌漑した土地にキャベツと玉ねぎを試験的に植えてみた。出来栄への素晴らしさに勇気付けられた彼は、三年後テキサスの農場主や実業家と共に会社を設立し、ブラウズヴィルを全米鉄道網に直結させた。州政府は鉄道への補助を止めていたため、アングロの農場主や商人に加わって、テハノの銀行家や資産家が資金や土地を提供した。²⁰

最後の線路が敷かれる前から土地開発業者の積極的な宣伝により、全米各地からこの地域に永住する農家の誘致が開始された。南テキサスはパラダイスであると謳い上げられ、作物の生育期間は十一ヶ月、網の目のように張り巡らされた灌漑用水路、鉄道の乗り入れなどにより必ず利益が出ることが強調された。農家は寒い中西部を捨てて国境周辺へ来るだけで大当たり間違いなしと勧誘した。一方、未開墾地を切り開く肉体労働はメキシコ人が行い、メキシコに接しているリオグランデ・ヴァレーでは安い労働力を補給する事は全く問題が無いと宣伝した。²¹

鉄道が開設すると農産物市場はたちまち拡大し、南テキサスはカリフォルニアやフロリダと比肩するほどの農業地帯になった。灌漑には大きな資本を必要とし、集約農業の発展を妨げてきた。乗り入れ以降、十数社の灌漑専門会社が出現し、カメロンとヒダルゴ郡の灌漑農地は1909年の五千から1919年には二十二万エーカーに増加した。初めて数千のアングロが国境地帯、特にこの両郡に押し寄せた。1900年から十年間両郡の人口は急増し、カメロンは一萬六千から二萬七千へ、ヒダルゴでは七千から一萬四千となった。鉄道線路沿いにメルセデス、サンベニートなどのアングロの町があちこちに出現した。²²

農業ブームはテハノの小地主に災難をもたらした。多くのものが土地を失い、1915年の暴動に彼らを追いやった。鉄道の影響が最初に顕れたのは土地の値段であった。十九世紀の終わりごろ、改良されていない牧草地は一エーカー当たり五十セントから二ドルであったものが、鉄道敷設の期待が高まった1900年頃、五から五十ドルに高騰した。1912年末、開墾地は百から三百ドル、灌漑が容易に出来る肥沃な土地は一エーカー当たり五百ドル以上の値がついた。土地の急激な高騰は牧畜業に深刻な打撃を与えた。小さな牧場主は自家用に牛を育て、作物を植え、余った物売って生計をたててきた。ふんだんに土地を持つ牧場主も急激に上昇する不動産税に対応するだけの金が無かった。彼等は土地を切り売りするか、保安官によって土地を競売にかけられるかした。そのような場合には例外なくテハノからアングロに所有権が移行した。経済的な圧力、スペイン植民地時代の曖昧な土地法、あからさまな窃盗などにより、鉄道開通後間もなくテハノは土地を失っ

た。1900から10年にかけてカメロン、イダルゴ両郡でヒスパニックの姓を持つものが失った土地は百七十八万七千エーカー以上で、この頃にはヒダルゴ郡の土地の半分はアングロが所有していた。半世紀前メキシコが領土の半分を失ったと同じようなことが、アメリカ南西部一帯のテハノの間に起っていた。²³

テハノは次々と農業労働者になり、彼らから土地を取り上げた農場主のために働く羽目になった。他人の農場で作物を植え、世話をし、収穫するのは、自分の牧場で働くことと全く異なっていた。牧場の仕事量は季節による偏りは無かった。大きいテハノの牧場では使用人が仕事の殆どをこなした。雇い主との関係は長く、六七世代に亘ることも珍しくなかった。小さな農場では家族ぐるみで働いた。一方アングロの農場での労働は同じ作業の繰り返しで、長時間腰をかがめて働かねばならなかった。能率給であったため、マイペースで働くわけにはいかなった。牧場の仕事は、いわば社交場のようなものであったのに、農場では現場監督が常に目を光らせていた。農業は季節変動が激しく、作物の収穫と共に北へ百マイル以上も移動した。²⁴

米国統治下で六十年もの間機能してきたテハノ政治体制が鉄道によって脅かされることになった。十九世紀に移り住んだアングロが、圧倒的多数を占めるテハノに同化していったのとは対称的に、鉄道開設後の農業ブームの波に乗って押し寄せてきたアングロはテハノを農業労働者とししか見ていなかった。高い地価と巨額の資本を要する灌漑のコストに見合うためには労働集約型の作物の栽培により、高収益を上げる必要があった。彼等は隣人或いは友人としてメキシコ人と身近に接することを先ず避けた。アングロの政治家はテハノの票を得られなかった。彼等はテハノの投票権をアメリカ民主主義への脅威だと宣伝し、テハノの選挙権剥奪を画策した。1902年、テキサスは人頭税を導入、1903年投票日の七ヶ月前にあたる二月までに納税を義務付けた。テハノは次々と土地を失い、人種的に卑下され、社会の片隅に追い込まれていった。²⁵

1859年のファン・コルティナや1891年のカタリノ・ガルサの反乱で見られるように、1848年南テキサスがアメリカに従属して以来、テハノはアングロの力と傲慢さに憤りを覚え、常に微妙な関係を保って来たことに関し、新たに到着したアングロは全く無知であり、そのようなことに配慮する気は更々無かった。数千のアングロの到着によって状況が益々不安定になっていくのと時を同じくしてメキシコ革命が始まり、多くの農民が武器を取って、彼らから土地を奪った独裁者を転覆させるために参戦した。リオグランデの北でもアングロに土地を奪われたテハノ牧場主たちがこれに刺激を受け、同じ事を考えたのは自然の成行きであった。²⁶

一方、南テキサスの問題解決のために、メキシコとアメリカの社会を融合させ、政治的、経済的にテハノ社会を発展させようとする、所謂進歩的なテハノのグループがあった。テハノをベースとした一大政治勢力を構築しようとする目論んだテハノ政治家もこれに加わった。

メキシコ革命の動乱に合わせてテハノの二つのグループの間の溝は深まっていった。鉄道がテキサスの南の端とアメリカを結ぶことにより、テハノは厳格な人種階級社会を形成し隔離政策をとる国家と対峙することとなった。流入するアングロ農家が持ち込んだ隔離政策により、南テキサスが孤立していた時代に享受していた権利や特典が脅かされることになった。しかし緊迫した情勢に直面し、古い体制が一気に崩壊したわけではなかった。これまで政治を担ってきたテハノやアングロの政治家はテハノの票を掻き集めて隔離主義者を抑えた。十九世紀に政治組織を作り上げたテハノやスペイン系の大地主たちは、生き延びただけでなく、鉄道開通後も繁栄を続け、古い政治体制の存続に貢献した。スペインからの移民の末裔であるフランシスコ・イトゥリアは鉄道に融資し、二十世紀の最初の十年間にカメロンとヒダルゴ郡内で一万三千エーカーもの土地を増やした。彼の牛は輸送コストの低減により莫大な利益をもたらした。1912年に没したイトゥリアはこの地域最大手の地主であった。彼は子孫に牧畜会社、不動産開発会社、商事会社を残した。27

1915年1月、サンディエゴ計画に沿ってリオグランデの北側で、蜂起するための兵士を募る任務を負ったバシリオ・ラモスを逮捕したデオドロ・グエラは、元々イトゥリアのような土地資産家ではなかったが、農業ブームに乗って財を成した。マッカレンで商店と牧場を経営していたグエラは有力な政治家ジェームス・ウエルスとのコネを巧みに利用して土地開墾の請負事業に乗り出した。彼は多くの労働者を雇い、灌木を引き抜く人手を要する荒地の開墾作業を行った。労働者をワゴンで送り込み、距離が遠くなるとプロジェクトが終わるまで野営させ、彼らに食料や必需品を売る卸売業や酒場などを提供し利益を上げた。彼はその金でマッカレンの北三十マイルのサンマヌエル地区に広大な牧場と農地を購入した。28

ヒダルゴ郡のフロレンシオ・サエンスは、この地方で始めてスペイン国王から土地を授与されたファン・ホセ・イノホサ大尉の直系の子孫で、1852年から1905年までヒダルゴ郡の行政官であった。彼は1880年代から綿花、砂糖キビ、メロンなどの栽培を始めるとともに、牧場や商店も経営した。彼は小作人のために敷地内に学校や教会を建て、政治基盤を築いた。サエンスのように成功したテハノは決して少なくは無かった。ヒダルゴ郡の牧場主ラモン・ヴェラもそのうちの一人で、1900年から十年間に三千エーカーの土地を取得して綿花を栽培した。ヴェラ、サエンス、グエラなどはテハノの票を確保してアングロ政治家の台頭に抵抗した。29

政治ではアングロとメキシコ人の共存は六十年にも及んだ。一方で、経済的機会均等と民族共存、メキシコ文化の尊重を掲げ、両者の調和を図ろうとする、テハノ進歩派と呼ばれるグループがあった。彼等はメキシコとアメリカの良いところを融合させようとした。彼等は目を内に向け、テキサスのメキシコ人が教養を高め、自己啓発し、進歩的であることを求めた。外に向かつてはテハノ社会の代弁者となり、アングロにメキシコ文化を尊重することを求め、政治的権利を主張した。テハノ進歩派は人種間の関係を改善し、テハノ

にテハノであることの意義を教え込もうと、野望に満ちていた。進歩派の代表格はラレドで新聞クロニカを発行するニカシオ・イダール一族と、ブラウズヴィルの弁護士で政治家のホセ・トーマス・カナレスであった。³⁰

20. Benjamin Heber Johnson, "Revolution in Texas, How a Forgotten Rebellion and its Bloody Suppression Turned Mexicans into Americans", Yale University Press, 2003 P27

21. Ibid. P28

22. Ibid. P29

23. Ibid. P31

24. Ibid. P34

25. Ibid. P36

26. Ibid. P39

27. Ibid. P39

28. Ibid. P40

29. Ibid. P41

30. Ibid. P42